



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イエメン：アラビア半島のアル=カーイダがアメリカ人質死亡事件について声明を発表

2014年12月4日、アラビア半島のアル=カーイダはアメリカ人のルーク・サマーズ氏を人質とし、アメリカ政府に対し3日以内に要求を実行することと脅迫する映像を発表した。これに対し、アメリカ軍は陸・空からサマーズ氏の救出作戦を実施したが作戦は失敗、サマーズ氏と、解放交渉が進展していたとされる南アフリカ人のピエール・コーキー氏の2名の人質が死亡した。

この件について、アラビア半島のアル=カーイダは11日付で幹部のナスル・ビン・アリー・アーニシーの演説を発表し、要旨以下の通り論評した。

* (人質の死亡は) 我々の警告にも拘らず軍事的解決を選択したオバマとアメリカ政府の責任である。人質の家族は、我々に(解放を)呼びかけるのではなく、オバマとアメリカ政府に(我々の要求に応じるよう)呼びかけるべきだった。

* オバマが人質死亡を蛮行と非難していることは、自分がアメリカ国民や作戦で死亡した南アフリカ人質の生命をないがしろにしていることをごまかすためだ。

* 我々が、ウマル・アブドゥルラフマーン師(エジプト出身のイスラーム主義者活動家。1993年の世界貿易センタービル爆破事件の首謀者などとしてアメリカで終身刑を受け服役中。)、アーフィア・シッディーキー(女性。パキスタン出身。アル=カーイダの活動家としてアメリカに逮捕され、禁固刑を受け服役中。)、グアンタナモなどに収監されているムスリムを解放しようとするのは正しいことではないのか？

* 今般の件の結果、アメリカ人はアメリカの内外の陸・海・空で危険にさらされる。我々がパレスチナや全てのムスリム諸国で安全を享受しない限り、アメリカ人も安全を享受できると夢想することはできない。



写真：今般の事件で死亡したサマーズ氏

評価

今般の事件では、アラビア半島のアル=カーイダがアメリカ政府に対して「要求実行のため3日間の猶予を与える」と脅迫したにも拘らず、同派の要求事項の内容が発表されていない点が注目される。11日付の演説からは、イスラーム過激派にとってアメリカによる弾圧の象徴

であるアブドゥルラフマーン師やシッディーキー氏、グアンタナモの囚人の解放が要求事項に含まれると推定できるが、この要求事項は長年にわたりイスラーム過激派諸派が繰り返してきたものであり、これに対するアメリカの従来への対応に鑑みると、要求が実現する可能性は極めて低い。一方で、救出作戦で死亡した南アフリカ人の件では身代金交渉も取りざたされており、アラビア半島のアル=カーイダの要求事項について疑問が残る。

その一方で、アブドゥルラフマーン師らの解放は「イスラーム国」も含むイスラーム過激派が頻繁に言及する、象徴的な問題である。これが、アラビア半島のアル=カーイダが「イスラーム国」のカリフ制樹立や忠誠の表明呼びかけなどを「要件を満たしていない。ムジャーヒドゥーンの戦列を割る行為。斬首はムジャーヒドゥーンにあるまじき行為」と批判する広報を強化している最中に、持ち出されたことが重要と思われる。現在、イスラーム過激派の間では「イスラーム国」と既存のアル=カーイダ関連諸派との間に威信や名声、影響力の獲得競争、資源の獲得競争が生じている模様である。イスラーム過激派にとって支持者に対してより訴求力のある活動は、アメリカをはじめとする西側諸国の権益への攻撃で戦果を上げることである。このため、今後は世界各地でイスラーム過激派諸派がアメリカなどへの攻撃や脅迫・扇動を活発化させる恐れがある。特に、アラビア半島のアル=カーイダは過去にアメリカに向かう旅客機に爆発物を持ち込むなどの事件を引き起こしている実績があるため、今後の動向に警戒が必要である。

そうした中で、今般のような政治的・脅迫をとともなう誘拐の対象は明らかに欧米人・キリスト教徒とわかる白人に限られていることも忘れてはならない。アラブ諸国や中東で活動するイスラーム過激派が、欧米諸国の国民の有色人種を攻撃した事例は非常に少ない。また、アジアの先進国についても、攻撃を受けた事例は比較的少数であり、その中ではキリスト教の伝道と結び付けられた韓国への攻撃が目立つ。この点はアラビア半島のアル=カーイダによる外国人や外国権益への攻撃が発生する可能性に備える上で考慮すべき点である。

(イスラーム過激派モニター班)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799